

本誌では、毎号、投稿論文の状況から特集する疾患を決めて編集しています。この5月号の特集は乾癬です。奇しくも昨年5月号の特集も乾癬でした。乾癬診療における近年の目覚ましい進歩が、この領域の投稿論文数増加と関係しているのかもしれませんが。

毎号の特集とは別に、年1回この5月に、臨床のトピックスをテーマに、臨時増刊号を発刊しています。今回の臨時増刊号のテーマは「プライベートパーツを診る！」です。皮膚科診療において重要でありながら、情報が少なかった領域であり、情報提供の必要性を考え企画させていただきました。

ただ、この企画においては、初めに言葉の問題がありました。「プライベートパーツ」という言葉自体が医学用語ではなく、明確に定義されたものとはいえません。一般的には、他人にみだりに見せたり触らせたりすることを憚る自分の大切な特定部位と認識されており、口、胸、性器、臀部があげられています。しかし、人によって捉え方は異なります。今回の臨時増刊号では、あえて明確な定義を示さず、診療において特に配慮が必要な外陰部を中心に臀部も含めた部位（下着で覆われる部分）を念頭に編集することにいたしました。

さらに、編集を進めるうちに、「外陰部」という言葉の定義が問題になりました。私自身は「男性外陰部」という表現に違和感はありませんでしたが、他の編集委員の先生から、「学会発表で男性例において外陰部という表現を使った際、外陰部は女性だけに使う言葉である、と注意されたことがあった」という指摘をいただき少し驚きました。また別の編集委員の先生からも、診療点数早見表の手術欄の外陰・会陰には女性器に関する手術しか掲載されておらず、陰茎・陰囊などの手術は別項目になっていて、外陰という言葉は女性に限り使われているようだ、と教えてもらいました。

解剖学的には、男性外陰部は陰茎・陰囊・精索・恥丘・陰毛を含む領域、女性外陰部は大陰唇・陰裂・小陰唇・陰前堤・陰核・恥丘・陰毛を含む領域、と定義されており、また、外陰部 Paget 病は男性にも使われていることから、男性外陰部は普通の言葉だと思い込んでいました。外陰部は女性限定の言葉という考えもあることを恥ずかしながら今回初めて認識した次第です。

ただ、診療早見表の手術欄の表記は、産婦人科と泌尿器科で手術を行う際、外陰部という言葉の必要性の違いに基づいているのではないかと推測されます。産婦人科では、外性器の手術をする際、陰内か陰外かを区別できればよいので、外陰部という解剖学的用語をそのまま使用したほうが便利である一方で、泌尿器科で男性患者の手術をする際、陰囊と陰茎を一緒にした解剖学的用語である外陰部という言葉を使うのは不都合という事情があるのかもしれませんが。解剖学的定義とは異なつて、外陰部は女性だけに使うという意識が生じているのは、こういった臨床的背景があるように思われます。

結局、臨時増刊号では、男性にも外陰部という言葉を使ってもよいが、可能であれば、陰茎・陰囊など、より具体的に記載しておいたほうが無難ということにいたしました。

今回の増刊号は、滑り出しの言葉だけでもちよつといい加減じゃないかとお叱りを受けるかもしれませんが、誌面はとても充実していますので、まずは中身をご覧いただければ有難く存じます。（土田哲也）

— 顧 問 —

大原 國章 大塚 藤男

— 編集委員 —

土田 哲也 五十嵐敦之 相馬 良直 林 伸和 佐伯 秀久

「皮膚科の臨床」第66巻 第5号 5月号

2024 年 5 月 1 日発行（毎月 1 回 1 日発行）
定価 3,300 円（本体 3,000 円＋税 10%）

年間購読料金
定価 50,160 円（本体 45,600 円＋税 10%）
〔年間 13 冊（臨時増刊号、増大号を含む）の誌代〕
〔年間予約購読者に限り送料無料〕

発行所 金原出版株式会社
発行者 福村 直樹
〒113-0034 東京都文京区湯島 2-31-14
TEL 03(3811) 7165〔編集室直通〕
TEL 03(3811) 7184〔営業部直通〕
FAX 03(3813) 0288
ホームページ www.kanehara-shuppan.co.jp
振替口座 00130-1-191269
印刷所 三報社印刷株式会社 TEL 03(3637)0005
広告申込先 (株)文京メディカル TEL 03(3817)8036

- ・本誌に掲載する著作物の複製権、翻訳・翻案権、上映権、譲渡権、公衆送信権（送信可能化権を含む）、貸与権、二次的著作物への利用に関する原著作者の権利は、金原出版株式会社が保有します。
- ・**JCOPY**＜出版者著作権管理機構 委託出版物＞
本誌の無断複製は著作権法上での例外を除き禁じられています。複製される場合は、そのつど事前に、出版者著作権管理機構（TEL：03-5244-5088、FAX：03-5244-5089、E-mail：info@jcopy.or.jp）の許諾を得てください。